
ナインストーリー

ケンジ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ナインストーリー

【Nコード】

N9348U

【作者名】

ケンジ

【あらすじ】

かつてこの世界を霸王が支配しようとした時九人の若いナイトが世界を救った、時は経ち再び霸王の復活を望む者が、世界を救えるのは

苦悩の戦士（前書き）

難しいことはよく解んないけど、読んで感想など頂けるとうれしいです。

苦悩の戦士

かつてこの世界は、霸王と呼ばれし男によって暗黒の時代を迎えようとしていた。

しかしそんな中一人の若者が立ち上がり、民を導き霸王に立ち向かったのであった、始めは苦戦を強いられていた彼らだったが、次第に力をつけていく、8人の若い特別な力を持った男女が現れ若者に力を貸し、見事霸王を倒すことに成功したのであった。のちに彼らはナイトナインと呼ばれた。

第一章

「ナイトナイン再結成」

第一話：カイン旅立ち

カインは窓からの木漏れ日で目を覚ました。今日はカイン16歳の誕生日である。

カインはベットから起きて一階に降りようと白のTシャツと青のジーンパンに着替えた。

ショートカットの金髪を掻きながらあくびをするカイン

すると一階からおじいちゃんの呼ぶ声が聞こえた。カインは部屋から出て一階のリビングへ向かった。

リビングには焼きたてのパンのいい香りとカリカリに焼けたベーコンの香りが漂っていた。

「おはよう、バーンおじいさん」カインが挨拶するとバーンおじいさんはニコツと微笑みコーヒーを飲んだ。

「まったくカインはお寝坊さんなんだから、早く食べないと片付けるわよ」皿を洗いながら黒髪ロングの髪をかきあげ、隣りの家のミカちゃんが言った。

カインとミカは幼馴染みのように育てられた。

「ミカちゃんどうしてここに？」カインがイスに座り訪ねると、ミカは皿洗いを終え、バーンおじいさんの所へ行き「バーンおじいちゃんにお使い頼まれたのよ、誰かさんじゃ頼りにならないって？」「なんだって、ぼ、僕だってお使いぐらい」カインはガバツつと立ち上がった、その拍子でカインのコップが倒れココアがこぼれた。

ミカちゃんを見ると凄い殺気が・・・？

「まあまあ二人とも短気を起こしちゃダメだよ、それぞれにお使いがあるから」

そういうとバーンおじいさんはコーヒーを一口飲みまたニコツと微笑んだ。

コーヒーを飲み終えたバーンおじいさんは木の棚からメモを取り出しミカちゃんにはこれを隣り村の市場で買って来て欲しいんだよって手渡した。

カイトにはメモを見せてくれなかった。

ミカちゃんが出て行くと「カイトは鍛冶屋に行って頼んでた物を受け取って来ておくれ。」バーンおじいさんはメモが気になるカイト

をせかすように言った。

「チエツ、解った」

カイトは上着（半袖シャツ）を来て、立掛けてある140cmの木の棒を手に取り出かけた。

苦悩の戦士（後書き）

読んで頂きありがとうございます。あまり文章力なく上手くないかもしれませんがよければ続きも読んで頂けるとうれしいです。

苦悩の戦士

第二話：バーンおじいさんとの別れ

カインが家を出ると、外は日差しが強いが、心地よい風が吹いていた。

カインはうんうんと背伸びをして風を感じた。

（よし、ミカちゃんより先にお使い済ませて、悔しがる顔見てやろう（ー＋、）ニヤリ）

カインは鍛冶屋に向かって走り出した。

その様子を木陰から見て居る男

男は仮面を付け、黒い手袋を着けバーンおじさんの小屋へ歩き出した。

村の鍛冶屋

「こんにちは、バーンおじいちゃんのお使いで来ました。」カインが木製のドアを開け中に入ると金髪ツンツンヘアの男が店員と話していた。

「ガルフと言う刀を探している知らないか？」金髪の20の若者が定員に詰め寄る、店員は知らないと言を横に振る、金髪の男はチツと言って出て行った。

カインは彼と目が合い顔を背けた。

「おやつカイン君来てたのか、変なところ見られちゃったね？」

そついうと店員は奥から短刀を取り出しカインに渡した。

「これは？」カインが不思議そうに受け取った短刀を眺めて聞いた

「バーンさんから頼まれたんだよ、いつも木の棒で訓練してるカイン君にそろそろ武器の一つも持たせてあげてもいいだろうって、誕生日にプレゼントだってさ」店員はバーンおじさんの手紙を渡した。

苦悩の戦士（後書き）

読んで頂きありがとうございます、カインは果たしてどうなるのか、この後の展開を楽しみにして頂けるとうれしいです。こんな展開はどう？ってのもあつたら教えて下さい

苦悩の戦士（前書き）

お使いを終えたカインしかしカインには受け入れられない悲しい現実が待っていた。

苦悩の戦士

第三話：バーンおじいさんとの別れ後編

手紙には誕生日おめでとう？、誰かを守る為だけに使ってくれとかかれていた。

カインは自然と涙が溢れた、血の繋がらない自分に優しくしてくれるカインはお礼を言おうと急いで家に向かった、しかしカインは家の前で膝を付き崩れ落ちた、家が炎に包まれている。

カインはバーンおじいさんが家の中に居ると思い家に入ろうとするが駆け付けた村人から危険だと止められてしまう？

数時間して火は消えた、後に残ったのは瓦礫のやまとバーンおじいさんの焼けた死体？

まだ16のカインには受け入れられない現実だった？・・・・・・・・

とりあえずカインはミカちゃん宅へ泊まることに

カインはミカちゃん宅のベットに腰掛け窓から星空を眺めていた。

バーンおじいさんのお使いを終え、ミカちゃんが帰って来た、事情を親から聞かされたミカちゃんは買物籠を持ったままカインの居る部屋へ入って来た。

ミカちゃんに気付いたカインは短刀をミカちゃんに見せ「ミカちゃ

ん見て、バーンおじいさんに貰ったんだよ、あつ、お礼まだ言っていないや、ミカちゃんバーンおじいさんはどこ？」

カインは精神崩壊しかけていた。

ミカは思わず買い物籠を投げカインを抱き締めて「カインしっかりして？バーンおじいさんはもう・・・・・・・・・・・・・・・・・・？」

その言葉にカインの眼から大粒の涙が溢れた、そして二人は抱き合い一晩中泣いた。

苦悩の戦士（後書き）

読んで頂きありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9348u/>

ナインストーリー

2011年10月9日11時49分発行